

## 展覧会関連企画「ミニ実験」を担当して

山本健吉

今回の企画展に伴って、「ミニ実験」が期間中、毎日曜日に1時間程度の内容で開催されました。この企画展に協力しております寺田寅彦記念館友の会としても援助をさせていただきたく参加をしてきました。



参加者の多くは小学生の様でしたので、私は、1回目の1月10日に永橋様の補助をさせていただきました。2回目は、1月17日に、私が勤務しております杉の子第2幼稚園の5歳児園児と保護者に呼びかけをさせていただき、10家庭24名の参加のもと、私の方が中心となってさせていただきました。

主な内容は、相手が幼児ということで、まず、切り紙を渡し、それを広げると何になるか楽しんでもらいました。雪の結晶の切り紙です。

そして、ポスターをもとに、寺田寅彦と中谷宇吉郎の説明を簡単にしました。

次に、氷の花としてチンダル像を見せ、続いて氷のステンドグラスを偏光板で見てもらいました。

続いて、氷のペンダント作りですが、参加人数が多いので、グループに分かれて作ってもらうために、偏光板で楽しむ時間を設け、以前山田功副会長様から紹介をいただきました透明のスプーンとフォークの模様を偏光板で観る時間を作りました。

氷のペンダント作りでは、モールドに氷を挿むとみるみるうちに隙間が閉じて、でき上がったペンダントをみると歓声が上がっていました。私の方から保冷材の入った保冷庫のようなものをもってきていただいと、家まで溶けずに持ち帰ることができますという案内を事前にしておりましたので、子ども達は、できたペンダントをそれに入れて持ち帰りました。

ミニ実験終了後、企画展示物を親子で見させていただき時間を取り、私の方から簡単に説明をし、その日の取り組みは終了しました。

その後、参加した保護者様から感想をいただきましたので、一部を紹介します。

※今日はとても楽しい実験に参加できて、子どもと私は本当に楽しめました。

高知に住んでいながら、文学館に初めて行きました。

氷の実験は少人数だったのもあり、見やすく、一つ一つ手作りのペンダントなどとても楽しかったです。氷の解ける時にあんなにきれいな結晶が出来るなど、子どもよりも私が楽しかったです。

寺田先生、中谷先生、どちらもよく知らなかったのですが、少しばかり知る事が出来たように思います。寺田先生の香典返し、素敵なイチゴの画とローマ字のかかれた風呂敷で、センスの良さと芸術的な作品にも実験だけでなく多才な方だったのだと思いました。(中略)

普段、日曜は仕事なので、あまり参加したことがなかったのですが、卒園も近く、思い切って参加して良かったです。どこにも寄らず帰ったのですが、我が子二人は大喜びで、主人の帰りを待ちかねて氷のペンダントを見せていました。溶けずに持ち帰れました。

しばらくは冷凍庫に眠ることになると思います。

園長先生、ありがとうございました。

P.S. 溶けてないのかと、朝からチェックです。

※理数系に弱い私は、氷のペンダントを作ると聞いて、削るのかな？火で溶かすのかな？とハテナがいっぱいでした。実際に、氷を型に置いてみると、みるみる氷が溶けだし、アルミニウムの熱伝導の速さに驚きました。偏光板で玉虫色に光る氷や、偏光板の不思議な箱も、仕組みを説明していただいて、やっと理解することができました。普段、目にする事のない現象に触れる事ができ、とても面白かったです。先生がおっしゃった様に、世の中には不思議がいっぱいですね！

展示室では、折り紙で氷の結晶を作ったり、顕微鏡で見たりといろいろな体験ができ、親子で楽しみました。寺田寅彦先生の「天災は忘れた頃にやってくる」という言葉は、どこかで聞いた覚えがあり、防災フェスタに寺田寅彦記念館が協賛していた（私の記憶が正しければですが…）事から、勝手に防災に尽力した方だと思い込んでいました…。しかし、展示を読んで、物理を学び、STAP細胞で有名になったあの理研にも在籍されていたと知り、驚きました！更に文学にも精通していて、私の出身地である松山ゆかりの夏目漱石や正岡子規とも交流があったと知り、ぐっと身近に感じる事ができました。また、バイオリンやチェロを演奏したり、絵を描いたり、マルチな才能を発揮されていて、うらやましく思いました。天は二物どころか三物も与えるんですね！私にも一つ分けて頂きたい…などと凡人は愚にもつかない事を考えておりました。すみません。こんなオチになってしまいました。参加させて頂き、ありがとうございました。

※家族で参加させていただき、ありがとうございました。

今年は、暖冬で、雪はおろか氷に触れる機会もなかなかない中、雪の結晶や、本物の氷のペンダント作りに大興奮していました。

家では、なかなかできない実験内容でしたので、貴重な体験をさせていただけてうれしかったです。

展示品も、あの短時間ではなかなか見られませんでした。文学館にも足を運んでみようと思った事でした。

子どもは、2階の展示の所では音の共鳴のコーナーが不思議だったようで、帰ってから「ねえ、君、不思議だと思いませんか」と言い合って、今日の事を振り返った事でした。

ペンダントは、祖父母にも見せて、その後も大切に冷凍庫にしまっています。いつか溶けてしまうその日まで大切にしています。

※雪のペンダント作り楽しかったようです。どんな風なものができるのか、どんな風にして作るのかも全く分からずの参加でした。ペンダントはあっという間にできて、キラキラしていて、すぐ溶けてしまいそうでしたが、2人ともとても大切に我が家の冷凍庫に保管しています。何度も見るうちに氷が溶けて、ペンダントのひもがとれてしまいましたが、それでも大切にしまっています。雪の結晶に色んな形があることも、私自身初めて知りましたし、昔に比べて雪に触れる事も少なくなっているの、今日はとても貴重な体験をすることができました。

「寺田寅彦」という名前はよく目にしますが、どんな人物なのか全く知りませんでした。「天災は忘れた頃にやってくる」言葉は知っていましたが、寺田寅彦の残した言葉だったのだと初めて知りました。展示品も時間の関係でゆっくり見られませんでした。センスがあるというか、何でもできる人だなあと思いました。文学館に行ったのも初めてだったし、すごく敷居が高いイメージでしたが、幼稚園のお友達や園長先生の実験という日常に近い環境で文学に触れることができ、いい経験になりました。ありがとうございました。